



## 本会の目的

本会は、「道徳経済一体」の理念に基づき、産業人教育の推進ならびに繁栄と永続の企業の創造につとめ、経済倫理の確立および経済界の安定的発展に寄与し、地球市民の一員として社会に貢献することを目的としています。

日本道経会会員社数/互敬塾塾生  
722社 / 448名

(令和6年11月1日現在)

## 巻頭言

## 理事を拝命して

(一社)日本道経会 理事  
南九州支部 代表幹事  
アーバンアメニティ設計(有) 代表取締役

## 赤澤 文義



この度、日本道経会の理事を拝命頂きました、南九州支部の代表幹事、赤澤文義と申します。

私は日本道経会に入会して16年目になり、本年度支部総会で代表幹事に推挙され、想像もしていない大役を仰せつかり、まともに道経一体思想の学びも十分研鑽出来てない自分が、理事まで就任するとは思いませんでした。

しかし、それも今自分に与えられた使命・試練だと考え、周りにおられる造詣の深い諸先輩方のご指導ご鞭撻を賜りながら、ポジティブに考え行動して参りたいと思いました。

現在、宮崎市内でアーバンアメニティ設計(有)一級建築士事務所をやっております。

「人と都市の快適な空間を創る」をコンセプトに、建築物の設計・監理業務、収益物件の事業企画、ロードサイド出店企画設計が主な業務内容で、個人住宅設計から医療介護福祉・居住・商業店舗施設、公共建築物等の設計業務を行なっております。

今は建築技術テクノロジーの進歩も早く、後継者に徐々にバトンタッチしておる処です。

さて、本年3月14日開催されました、日本道経会理事会に山崎前代表幹事に同行して、初めて理事会にオブザーバー出席させて頂きました。各支部の活動状況等発表され、活発な審議・討議がなさ

れ、各支部の活動内容等拝聴することが出来ました。

その後の懇親会でも各代表幹事の皆様とお話する機会が出来、特に会員増強ではどこも苦心されておられる様子をお伺いすることが出来き、我が支部も同様の問題を抱えており、意見交換させて頂き、有意義なオブザーバー参加となりました。

ところで、支部代表幹事として、早や6カ月が経とうとしており、支部テーマとして「徳づくりの経営と目指せ会員増強」を掲げ、特に会員増強では発足当時36名在席され、今では14名の半減以下となり、例会運営や会の活性化の方策が乏しく寂しい状況です。

本年度は5名程の会員増強を目標に、組織増強委員長を中心に、例会初日に会員増強の方法等を協議し方策を思案中です。やはり数は活動の力なり、活性化の基本だと考えます。

その上で各支部がどのような方法で会員増強をされておるのか、ノウハウ等、理事会にも出席しながら意見交換させて頂き、それらの解決の糸口を見つけられる様、又、支部と理事会のパイ役としての情報を共有し、役目をしっかり担って行けたら幸いです。

これからも、人づくり仲間づくりを基本に「日本道経会に席を置いていて良かった」と言えるよう、共に学び、共に語り、共感しあい、盛り上げて頂けます様、明るく楽しい支部づくりに邁進して行きたいと考えております。

どうか皆様のご指導ご協力、お知恵を賜ります様、宜しく願い申し上げます。



10月10日(木)、麗澤大学新宿キャンパスにおいて、東京支部10月講演会を出席者22名で開催しました。「縮退する日本で、企業はどのように生き残れるのか？—DXの推進と新しいリスクへの対応」と題して、一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科教授で麗澤大学国際総合研究機構副機構長・学長補佐の清水千弘氏にご講演いただきました。

清水講師は、日本のGDPや地価がグローバル経済の中で年々相対的に低下しており、海外では日本がユニークな文化を持つ国として認識されているものの、経済大国としてのイメージは薄れ、むしろ衰退しているという現状を指摘されました。これは、少子高齢化が進み労働人口が減少しているという構造的な問題によるもので、この問題を移民で解決しようとする、約4,000万人規模の移民が必要になるとする試算が

なされていると説明されました。

このような厳しい状況の中で、企業が生き残っていくためには、変化に対応できる力、具体的には、AIや機械と人の適材適所、人材育成による生産性の向上が不可欠であると強調されました。

また、個人の生き方についても言及され、仕事の目的・動機について、自分にとって良いことではなく、家族や社会にとって良いことを選ぶことが重要であること。どんなに成功しても、最後は人間関係が大切なので、家族や友人、社会とのつながりを大切に、支え合いながら生きていくことが重要であること。そして、自身の経験を踏まえ、師を選ぶことの大事さを強調されました。

今回の講演は、日本の現状を客観的に分析し、企業が生き残るためのヒントを与えてくれるものでした。就業人口減少やグローバル化などの課題は簡単には解決できません。しかし、この講演で示されたように、変化を恐れずに新しい挑戦を続け、社会に何が貢献できるか考え続けることが、自分や会社の成長につながるものと勇気づけられました。

事業部会 新幡 英治

※10月講演会(清水千弘講師)の動画が日本道経会ホームページの会員専用サイトにて視聴できます。

## 長崎支部 道経一体経営セミナー



10月19日(土)セントヒル長崎にて、モラロジー道徳教育財団 企業センター 副センター長 島田潤一郎氏と株式会社丸福 代表取締役 福田

靖久氏を講師に招いて、道経一体経営セミナー「徳づくりの経営～道経一体の財務戦略～」を開催しました。30名ほどの参加者が3時間ほどのセミナーに熱心に聞き入りました。

第一講、第二講は、島田講師の実体験に基づく旧東海銀行不正融資事件の生々しい現場の状況を話していただいた後、締めくくりに『無上意』の精神のたとえ話を二つしていただいた際は会場にいたほとんどの参加者が感動して涙ぐんでおられました。身の程をわきまえず身の丈以上に大きく見せようと経営するのは、大きな借金を背負いやがて何もかも破綻してしまうも

のと改めて具体的に教えていただき、さらに目の前のお客様と向かい合い本当に役に立つことを一生懸命にする姿こそが正しい道だと重ねて気付かされた次第です。

第三講は、福田講師の二代目社長としての悪戦苦闘の苦労話で、業種や地域の違いを超えて参加者の心に響いたよい話でした。初代社長のお父様にことごとくたてついていた入社から専務時代の若い時の葛藤が、聞いている私達には我がことのようにほほえましく思えましたし、社長就任後に新機軸を開発導入し根気よく育て上げられた手腕は、高く評価されるべきで我々の参考とするべきことでした。本業を深く極めたうえで小さなヒントを得て、時代の潮流を適切に感じ、ネット販売を成功させ、従来の訪問営業からネットでの営業に切り替えることで、全国から様々な注文を寄せられるようになって

会社業績を劇的に好転されたとの話。数々の苦労を乗り越えての今日がある事をわかりやすく教えて頂きました。そこにはモラロジーを実践されたお父様が残された精神が息づいています。このようなセミナーを聞く機会を得られたことに感謝します。

総務部長 馬場 隆幸



## 奈良支部 経済講演会



令和6年9月6日（金）ホテル日航良にて日本道経会奈良支部主催・奈良商工会議所、奈良新聞社のご後援のもと、世界1周を9回、南極越冬を2回経験した旅の料理人 篠原洋一氏をお迎えし参加者40名のもと

経済講演会をしていただきました。

南極地域観測隊は1991年～、2009年～、2回調理隊員として参加する。まず昭和基地越冬の28人1年分の約2400万円の調達をする。今はFD（フリーズドライ）食品でバランスのとれた食事のおかげで、精神が安定し、事故が少なくなる。

約30人の狭い空間の10か月において、コミュニケーションポイントは

1. 262の法則（全体の2割は「優秀」、6割は「平均的」、2割は「貢献度の低い」）で構成されている。262を懐に落とし込み心肝とする。
2. アンガーマネジメントする、極限の地では寛容性、許容性を持ち、思いやり、褒める事と褒められる事。嫌いな人は必ずいるし、無理につきあわなくてもいい。絶対に一人を追い詰めない事が肝心。

一番の任務は無事に帰ること、無事とは「死なない」、「怪我をしない」、「メンタルがやられない」3拍子の事である。

南極という極限でのコミュニケーションの大切さを実感しました。

講演の後の懇親会は講師と共に和気藹々と楽しく語り合いました。

事務局長 辰巳 貴昭





2024年10月、京都支部の例会において「徳づくりの経営～三方良しと品性資本の実践～」をテーマに、鹿倉弘之氏を講師にお招きしました。鹿倉氏は、自らの経営者としての経験を振り返り、兄弟間の確執や従業員の問題、そして多額の借金といった数々の困難に直面した過去を語られました。しかし、人生を大きく変えるきっかけとなったのは、ある師との出会いでした。その師の教えを心から信じ、素直に従うことで、鹿倉氏は自らの運命を大きく転換し、現在

では従業員と共に幸せになれる会社を築くことができたと強調されました。さらに、その成功の背後には、長年にわたって鹿倉氏を支え続けた奥様の存在がありました。今回の例会にも、その奥様と一緒に参加され、お二人の絆の深さが伝わる場面も多く見られました。

講演後には、参加者同士のグループワークを行い、各自が鹿倉氏の講演をもとに感想を共有するとともに、自社が抱える課題についても率直に話し合いました。このグループワークでは、参加者が互いの視点を交換し、共通の課題に対する意見やアドバイスを通じて、実践的な気づきを得ることができました。また、その後の懇親会では、参加者からの質問コーナーを設け、鹿倉氏と奥様の対話が非常に和やかでユーモアあふれるものとなり、会場は終始、笑いと熱気に包まれました。特に、鹿倉氏と奥様の自然体でのやり取りは、参加者にとって心温まるひとときとなりました。

今回の例会を通じて、参加者は「ブレずに素直に生きる」という鹿倉氏の生き方に深く感銘を受けました。その姿勢は、経営の本質だけでなく、自己の成長にもつながる重要な学びとして、多くの参加者の心に刻まれました。この例会は、経営者としての視点だけでなく、人間としての生き方についても多くの示唆を与える、非常に有意義な時間となりました。

事業部会 福井 誠

## 道経一体経営講座（柏会場）のご案内

経営者・経営幹部対象 Cコース 致富の経営と財務・会計  
令和7年2月8日（土）～11日（火） 80名定員

毎年キャンセル待ちが出る人気の講座です。ご受講予定の方は早めにお申し込みください。

本会報のバックナンバーはホームページでご覧いただけます。

NIHON DOHKEIKAI <http://www.ndk.gr.jp>

一般社団法人

発行：**日本道経会**

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1  
TEL. (04) 7173-3172 FAX. (04) 7173-3134  
E-mail office@ndk.gr.jp

事務局 だより

執行役員で伊勢の神宮を参拝いたしました。日本道経会創立25周年、生田泰宏会長をはじめ新役員体制となり、心一つに参拝をさせて頂きました。会員企業様に少しでもお役に立てるように、今後も努力させていただきます。

本部事務局